

2009.9.27. 「保護者懇談会」学長挨拶

長崎国際大学 学長 潮谷 義子

「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ 驚かれぬる」(藤原敏行) やつとやつと、そんな涼しさを覚える時候になりました。

本日は「保護者懇談会」を開催いたしましたところ、ご多忙な日程を割いてご参集いただきありがとうございます。教職員一同、緊張を覚えつつも、この日を相互理解のよい交流の場にしたいと願っているところでございます。

ところで、学生はもとより私達を取り巻く社会の動向は心穏やかならぬものがあります。わずか一年前を振り返ってみましても、歴史的な原油価格の高騰、中国をはじめとする地震や災害、地域によっては民族戦争、新型インフルエンザ、加えて“100年に一度”と表現される経済不況に世界を巻き込んだリーマンショック等々、地球の中の人間として、安全・安心が脅かされていると申し上げても過言ではありません。

更に申し上げれば、人間性、心や精神・身体を含めて脆弱、劣化しつつあります。また、何より日本は少子高齢社会というこれまで経験したことのない時代の渦中にあります。大学の立場でも、数の上では進学希望数と受入許容人員は、えり好みや選択をしなければ全入できる状況を示しています。このような中で、大学の特質とすべきものは何かと問われますならば、第一義的には「教授力」と申上げたいと思います。人間社会学部、健康管理学部、薬学部そのいずれもが「生命・健康・暮らし」を直視し、すべての生命の存在に畏敬の念を持ち、尊厳ある人間の生き方とは？と問いつつ、対人サービスの専門性、技術・実践力を身につけさせて、社会に送り出したいと教えるもの一同は願っております。

また、専門教育と共に、本学では「倫理性」「社会性」「持続可能な環境」「国際理解」を全学共通科目として実施しております。かつて、新渡戸稲造は“人格のないところには責任は生じない”という発言をしております。しかし、ややもいたしますと学生の中には受験に追われた高校時代までの経験から、あたかも大学がゴールであるかのような錯覚に陥り、どんなに熱心に教えたい、資格を取らせたい、社会や人に対して責任を持つ人材に育てたいと願っても、単位、成績、出席日数共に問題視せざるを得ない状態の学生も存在します。

本日の懇談会において率直に意見交換をして参りたいと考えております。

本学に縁あって入学、進学してくれた学生達の就職率は、平成20年度90.7%。国家資格に関しては管理栄養士84.4%、社会福祉士35.8%、介護福祉士100%、精神保健福祉士77.8%、いずれも全国平均以上の合格率を示しております。更にスポーツの面では、ゴルフ部の学生春季リーグ戦優勝・全国大学ゴルフ対抗戦7位、女子テニス部の九州地区大学体育大会優勝、車椅子バスケットボール選手権日本代表として世界大会出場。また、文化的な面でも茶道活動、ボランティア活動、よさこい、大衆演劇、献血ボランティア等々な活動を行っており、スポーツに文化に積極的に活動を展開している頼もしくも、誇らしい

若々しい学生の姿があります。学生たちの多くは本学のモットーであります「いつも、人から。そして、心から。」の道標に向かって歩み続けております。

本日の懇談会を一回性のものとして終わらせず、今後とも息子、娘が通う本学を共に愛し、お考え下さいますようお願い申し上げます。